

第 50 回鳴門市人権文化祭記念講演会における西島藤彦氏(講演者:部落解放同盟中央執行委員長)への質問及び回答について

Q1 毎年、同和問題の人権の授業はとても力を入れてやっているつもりです。現在も(差別が残っていること、こんな理不尽なことはない、と。しかし、学び続けても「寝た子を起すな」の考えが変わらない生徒も一部ですがいました。そういう生徒にどうアドバイスしたらいいか教えていただきたいです

A1 確かに、日常的に露骨な部落差別にさらされることは減りましたが、就職や結婚といった場面で、部落の出身や居住していることで差別にあう被害は起こっています。特に、今日、ネット上で差別情報がまん延しており、部落の所在地を暴露するようなことも起こっています。

まずは、現実を知ってほしい。そして、全国水平社創立でも明らかなように、(被差別当事者が)差別はおかしいと声を上げ、その問題を可視化させたことで、社会的に認知させ差別解消への取り組みが始まりました。

当時は、ある意味、部落差別をするのが当たり前でした。「寝た子を起すな」でいることは、差別を野放しにし、助長することにつながりかねません。

また、「寝た子を起すな」は、知らなければわざわざ差別しないのに、という意味も含まれていると思いますが、知ったことで差別をする意識が問題なのであり、その意識、あるいはその意識が形成された背景を考えなければなりません。その他の差別問題も一緒です。

今すぐに何かというのは難しいかもしれませんが、差別はダメだという意識をしっかり持ち、困っている人や、もし将来差別の場面にでくわしたとき、反差別の立場でいてくれることを強く願っています